

令和 5 年度 東京都立神代高等学校（全日制課程）学校経営計画

東京都立神代高等学校長 小林 正人

1 スクールミッション

「学び、鍛え、輝け」を目標とし、学習方法の指導による学習習慣の確立と自学自習の推進、自主的・自律的な特別活動、地域連携といった教育活動を通じて、社会の様々な変化に対応し、他者と協力して未来を切り拓く、真に社会人として自立した人間を育成します。

- (1) 本校の教育目標「学び、鍛え、輝け」のもと、生徒一人一人の個性や適性を最大限伸ばし、真に自立し社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 「責任を伴う自由」を掲げ、規律の中で自主的・自律的に行動できる力を育成するとともに、自ら学ぼうとする姿勢と高い目標を設定し実現できる気力・体力・学力を育成する。

2 中期的目標と方策

(1) 中期的目標

教育目標にある「平和で民主的な国家・社会の形成者として貢献できる人物を育成する」ためには、様々な変化が予想される社会において、生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を持ち、一段高い目標を自ら設定しそれを実現するために創造的・主体的に努力し続ける力を育成することが欠かせない。あらゆる教育活動を通して生徒の自主性・自律性を育み、心身ともに健全で、確かな学力に裏打ちされた感性豊かな人間を育成する。

(2) 中期的目標達成のための方策

① 自律的生活習慣・規範意識の徹底と自主的活動の支援

落ち着いた学習環境を確保し心身ともに健全な人間を育成するために、人権意識・社会性・規範意識を養い、自律的生活習慣を徹底する。また、部活動・学校行事を通して自主的・自律的に活動できる力を育成すると同時に、体罰根絶・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて全校で取り組む。

② 学力向上推進への組織的取組

「予習→授業→復習」の学習習慣の確立、基礎・基本の確実な定着と応用力の育成を目指し、3年間を見通した学習指導計画を策定・実施し、検証・改善する。また、少人数授業や日常及び長期休業日中の補習・講習を実施し、「学習する集団」の形成に組織的に取り組む。

③ 国公立大学及び中堅上位・難関私立大学への進学実績の向上

進路指導部中心に3年間を見通した進路指導計画を実施・検証・改善し、進学実績を伸ばす組織体制を確立する。

④ 地域貢献と「自助」「共助」の精神の涵養

奉仕活動・地域と連携した防災訓練や部活動・委員会活動等を通して、地域に貢献する態度を育て、「自助」「共助」の精神を涵養する。

⑤ 教育環境の維持・充実

改築の実施に際して、企画調整会議や全定主幹会議を中心に、教育活動の質を維持できるよう、計画性をもって取り組む。また、全定の教職員が連携し、改築中の教育環境の一層の充実を図る。

⑥ 学校運営における情報共有とコミュニケーションの拡充

教職員各自の個性や能力を生かすと同時に、特定の個人に依存しない組織的な運営の実現を図る。全教職員が学校経営への参画意識を持ち、経営企画室との連携協力を進める。各事業の運営に際して、費用対効果を最大限に配慮し、効率的予算編成・執行・管理を行う。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 生活指導：自律的生活習慣の確立と規範意識の徹底

ア お互いが気持ちよく過ごせる落ち着いた学習環境を実現するため、人権意識・社会性・規範意識を養い、自律的生活習慣を確立する。特に、挨拶、マナー、高校生らしい服装・頭髮、時間厳守、清掃の徹底、人の話を聞くこと等を重点的に指導する。

② 学習指導：学習習慣の確立と自学自習力の育成

ア 適切な学力スタンダードを策定し、各教科は3年間で身に付けさせる学力及び学習習慣を明確にするとともに、3年間を見通した学習指導計画を作成し、基礎的・基本的学力の定着と応用力の育成を図る。

イ 言語能力の向上に努め、「書くこと・発表すること」を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、読書月間を設定するとともに課題図書を指定し、読書習慣を定着させ、読解力の向上を図る。

ウ 教職員の校内・校外での研修を活性化し、自学自習力の育成を図る。

③ 進路指導：3年間を見通した計画的進路指導の確立

ア 3年間を見通した進路指導計画を実施・検証し、改善を進める。拡大進路指導部会を充実させ、進路指導部が学年と連携して組織的進路指導を実現する。

イ データに基づく進路指導を行うため、進路データのデータベース化を推進するとともに、実力テスト等の分析結果を日常の学習指導に活用する。

ウ 国公立及び難関私大等への合格実績を向上させる。

④ 特別活動・部活動

ア 部活動や学校行事等を通して自主的・自律的活動を支援・指導し、最後までやり遂げる「気力・体力」を育成する。より高い目標を追求する良質な自律的集団の形成を目指し、個人が集団を育て、集団が個人を育てる関係性を構築する中で、リーダーシップの育成を図る。

イ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、他国の文化等を学んで多様性を尊重することの大切さを実感することで、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる資質を養う。

⑤ 地域との連携

ア 奉仕活動を通して地域に貢献し、生徒の自尊感情を育むとともに、地域から信頼され応援される学校を目指す。

イ 部活動・委員会活動等の活動を通じて、近隣の学校や地域との交流・連携を深める。

ウ 地域と連携した防災訓練等において地域と協力し「自助」「共助」の精神を涵養する。

⑥ 健康づくり

ア 体力テストの結果に基づき、体育における運動量を確保して体力の維持・向上を図る。特に、水泳・持久走・縄跳びを中心として、補習等も実施し最低の運動量を全員に確保する。

イ 学校保健委員会、教育相談委員会を定期的に開催し、生徒の心身の健康状況について情報を共有する。必要に応じてケース会議を開催し、課題に対して早期に対応する。

⑦ 募集・広報活動

ア 中学生・保護者に本校の特色を分かりやすく伝えられるよう、学校見学会・説明会の方法を工夫・改善する。

イ パンフレットの改善・訪問回数の増加など、中学校・学習塾等への広報活動を強化する。広報活動は全員体制で臨む。

ウ ホームページを重要な広報手段と位置づけ、内容の充実・更新回数の増加を図る。

⑧ 学校経営・組織体制

ア 分掌・教科とも組織的運営に努め、優れた取組を組織として継続的に実施する。

イ 予算執行を効率的に行い、落差金等を有効に活用する。

ウ 日常的な施設・設備の点検を通して、不良箇所・危険個所に迅速に対応し、安全を確保する。

エ 体罰の根絶及びいじめの未然防止・早期発見・対応、自他の生命を尊重する教育に向け、校内研修等を行い全教職員で取り組む。

オ 業務の精選と効率化を推進し、教職員のライフ・ワークバランスの実現を図る。

カ オンライン学習について、新型コロナウイルス対策で得た知見を基に、教育活動への効果的な利用を検討する。

(2) 重点目標と方策

① 個に応じた指導の充実とオンライン授業等の活用

【方策】 ア 「予習→授業→復習」の学習習慣の確立と自学自習の推進（学習方法の指導の推進）

イ 全校体制での遅刻指導を行うと共に、授業開始・終了時刻を厳守し、授業規律を徹底する。

ウ 日常・長期休業日中の補習・補講の充実やオンライン学習システムの活用により、学習時間を増加させる。

エ 教員相互の授業参観、校内研修等を活用し、個に応じた効果的な指導を組織的に行う。

② 国公立大学・難関私立大学等への進学希望の実現

【方策】 ア 生徒の進路希望を実現するため、年間指導計画を見直し、改善する。

イ 生徒の進路希望に応じた選択科目の設置や各種補習・補講の充実により、入試に向けた学力の向上を図る。

ウ 教職員全体で実力テストの分析結果を共有し、日常の学習指導に活用する。（実力テストの事前・事後指導の強化。）

エ 拡大進路指導部会を通して、進路指導部と学年の連携を強化し、組織的な進路指導を実現する。

③ 募集・広報活動の一層の推進

【方策】 ア 教務部を中心に、全校体制で計画的に募集・広報活動を実施する。

イ 学校見学会・説明会の実施方法を工夫・改善し、参加者数を増加させる。

ウ ホームページの内容を改善・充実させ、更新回数の増加を図る。

【数値目標】 () は昨年度実績

① 年間遅刻総数の前年度比	5%減	(5%減)
② 部活動加入率	90%	(86%)
③ 授業外の学習時間	2時間以上	(平均60分)
④ 長期休業中の講習の延べ講座数	75講座	(70講座)
⑤ 現役国公立大、MARCH以上の私大合格者数	100名	(94名)
⑥ ホームページ更新回数	月8回	(月6回)
⑦ 東京都中学校長会進路対策委員会応募希望者数	1.8倍以上	(2.1倍)